

バストス週報

水紋 25

第1365号
昭和四十八年
六月十八日
月曜日発行
Diretor
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres.
Vargas, 188
C. Post. 112
Fone; 40
BASTOS
C. F.
Anual
Cr. 卅
30.00
Adiant.

誰か故郷を思わぬ者

○ 渡伯して四十年も一カ所に暮してしまつと、いや底なしにその土地が故郷になる。バストスは、いわば、吾々が拓き、耕やし、町作にも参勢もした地で、他の都市やファビンダとちがふ。た感融を持つた土地であり、ここで生れた二世にとつては勿論真の故郷だが、ここに入植し、ここで生計を営む吾々にとつても、故郷といつてよいであらう。

○ その郷故の繁栄を望むことは自分他人の区別はないわけだが、古くから居住している者にとつては、その盛衰は全くひとごとではない筈である。バストスも農産物でまかなつてゐる程村だから、これまで幾度も窮地に追い込まれ、危機に立たされたことがあり、その都度、降参を切り抜けて故郷を守りぬいて来た。「最後の仕上げ」というような言葉をくみかえしては希望をつないだが、考えてみると、農産物だけで立つていこうとすると、一応安泰感をもつ時長はあつても、何十年たつても堅城を築くことは出来ない相談だらう。

○ バストスを堅実にしたものは養鶏だつたようだが、そして、その盛況も二十年位いつづいただらうか。そのうちにも況不況があつたが、北米の日系農家並みにカーロやカミニオン、トラトルと町並みの揃え、立派な住宅の何百と出来たことを思うと、これまでの諸産業に比して養鶏は、ずいぶんバストスを潤おしたといふことが出来る。

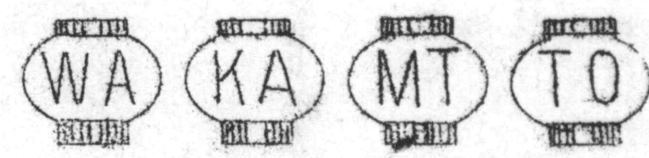
この大争な養鶏にも、ひびの入る時編がひたひたと波打つ如く奇世て来た事を身近かに感ずるようになったが、これも、でも卵価安で感した不安とけちが、つて、もつと切実なものがある。これまでは、卵安の時でも、しばらく待つていると又高価がくる。そして高価がくると、少たまもつかかる寸法だった。最近のは少しちがう。それは同業者が増えたこと、資本家がインフレガードを使つてグランジャ経営にのり出す。養鶏家が事業を拡張するといふ、供給と需要のバランスのとれない市場を作り出してしまつた。昨年の情態がそれを記録してゐる。飼

WAKAMOTO

衰弱 幼年 少年 青年 壮年 老年

CONVALESCENCAS EM GERAL ENZIMAS + COMPLEXO + MINERAIS

百倍強力



料は遠慮なく上る一方。○ 本年になつてから採算がとれないと、つて廃業するグランジャが続出した。卵価は持ち直したようだが、飼料上げで卵価は業者は樂觀できめという情態だ。もし卵価が下れば、忽ち赤字という卵人口が足りないと、何とんでも卵が市場にぶつくようでは安心出来ない。どうか、つて卵人口が増えるのもではないから、供給の關係調制するより外安定を保つ手がないのである。一旦殖した鶏を急減らすことも出来ない相談とすれば、卵不況に備えて、一家の経済を支えて卵専を考へないわけにはいきまい。○ 即ち、度々話題となる副業の問題が起るわけだが、手まわしの良い人はすでに、ポソカン、その他の果実を栽培して危機をかばつてゐる。近頃日本からブラジル大豆に目をつけて調査団が来てゐるが、新聞で見ると、ブラジル大豆は蛋白質大に乏しいそうだが、今やパラナ州から大

量に生産されるようになつた。大豆を片
 手間で作る位では、養鶏の対策には駄目
 が、も知れないが、バスターで相当量
 まとまるようであれば、考えてみる価値
 があると思ふ。

その外桐の水が脚光を浴びつつある。
 これは、大豆程の国際性はあるまいと思
 れるが、日伯貿易が活発になれば、その
 救にのれぬこともない。桐は伐採される
 までの年以上かかるといふから、換金は
 遅れるが、永年作物として面白と思ふ。
 うが、知りぬが、他の害虫に侵されるか、と
 く、のの外に、国際性をもつ農産物は外に
 なく、この打つておき、卵価下落の時期に
 誰か故郷を思わさるし、いつ頃は、は
 なが、吾々にはよい故郷をますます立派に
 しょう。生産量か、な郷土にしたいと念ずるあ
 り、岡目八目の提言をする所以である。

ピンガ礼讃

(2)

ピンガは少し辛すぎるといふ人もある
 。水割りにすると水くさいといふ人もある
 。本酒の半々に割るとよい。自分の口に合
 うか、クテルを作ることも、日本酒だけだ
 と、甘くて、又べつのもたする人は、ピンガと調合
 すると、又べつ味になる。は、楽しいものじや
 ないか、と自認して、私に、日本のものじや
 ないか、と自認して、私に、日本のものじや
 い、ピンガは強すぎる。日本酒では弱過ぎ
 る。人は一度ためてみる。といひ、と人な
 る。味がする。って、？。そうだな。相原前市長
 と、山申現市長を、ミッソーラ、たよ、うな
 だ。と思ふ。ん、煙申、フレ、招、バスター、配
 自、治、会、長、だ、つ、た、石、橋、長、児、氏、を、合、せ、て、ニ
 割、つ、た、よ、う、な、味、と、い、つ、て、も、い、い、だ、ろ、う、が
 ウ、イ、ス、キ、の、飲、み、方、は、い、つ、て、も、い、い、だ、ろ、う、が
 ロ、ッ、ク、に、し、た、方、が、長、つ、か、さ、が、よ、り、も、オ、ン、ザ
 氷、が、な、か、つ、た、ら、紅、茶、玉、露、な、の、冷
 味の、な、か、つ、た、ら、紅、茶、玉、露、な、の、冷
 え、の、味、が、す、て、は、す、と、何、と、し、得、体、の、知、れ、な
 い、味、が、す、て、は、す、と、何、と、し、得、体、の、知、れ、な
 カ、ボ、ク、ロ、を、振、り、絞、つ、て、ピンガをいかに
 と、智、能、を、振、り、絞、つ、て、ピンガをいかに
 く、の、む、か、を、振、り、絞、つ、て、ピンガをいかに

ORGANIZAÇÃO RIO BRANCO S/C ADVOCACIA CONTABILIDADE E DESPACHOS

ご注意

左の方は六月末まで外国人登
 録の手続きをしない。ムルタ
 にかかります。

- 旅券のない人、紛失した人
- 旅券だけ持っている、何も手
 続きしていない人
- 未成年者で何も手続きして
 いない人 (以上新来者が多い)
- ムルタは最賃の三%を計算され
 ます

三急当事務所においで下さい

小林事務所
 オルガニザツソンリオブラン
 コ S/C と改名いたしました

法律会計事務所
 DR DR 石川 雄 弘
 小林 平 行

もつとも、パールやホテコでも気の利
 いた主人なら、バルコニーをませたり、
 シンサールを、バルコニーの前、入りか
 て、いる、高い、バルコニーの前、入りか
 を、手、に、した、飯、の、優、越、感、は、吾、々、に、も、よ、く
 わ、か、る、の、で、あ、る。

セルベ、ジャ、と、と、ち、か、う、ま、い、？、そ
 い、つ、は、難、問、で、す、な、か、る、く、酔、い、た、い、時、は、
 セ、ル、ベ、ー、ジ、ャ、一、本、だ、か、少、く、コ、ク、の、あ、る
 酔、い、方、と、い、う、と、ピンガ、た、ね、酒、に、よ、う、と
 離、れ、し、も、酒、く、さ、い、息、を、吐、き、こ、ん、な、奴、が、鼻、を
 赤、く、し、て、話、か、け、て、く、る、と、雇、主、に、値、く、く
 赤、く、し、て、話、か、け、て、く、る、と、雇、主、に、値、く、く

自分、が、酔、つ、て、い、る、時、は、相、手、に、顔、を
 赤、く、し、て、話、か、け、て、く、る、と、雇、主、に、値、く、く

セルベ、ジャ、の、酔、は、早、く、さ、め、る、と、い、う
 が、これ、は、量、に、し、よ、る、だ、ろ、う、が、サ、メ、ン
 が、な、ど、で、は、強、い、酒、は、禁、物、だ、と、思、う、か、る

ト、ナ、は、強、い、酒、は、禁、物、だ、と、思、う、か、る

ね、が、う、の、が、主、人、側、の、心、情、で、あ、る、昔、は、
 カ、グ、メ、ン、ト、の、お、客、が、酔、は、ら、つ、て、手、に、お、え
 ない、こ、と、が、し、は、あ、つ、た、よ、う、だ、も、

で、は、割、合、ひ、ど、い、酔、客、は、居、な、い、よ、う、だ、も、

し、ピンガ、で、も、出、さ、れ、た、ら、ピンガ、ひ、ん、か、痛
 い、と、ぶ、よ、う、な、勇、ま、し、い、光、景、が、出、現、せ、ぬ、と
 も、限、ら、な、い、大、勢、の、席、に、出、し、て、気、勢、を、よ、げ、る、と

「月を見る、火酒は静かに飲むべかり」という名吟がある。子ビ子ビと加めろよ、うに、オスルようにするところ、何ともいえぬ情趣がある。

糸音

恍惚の人 9

部屋の片隅で、端然として正坐して、茂造は、眼をこぼすようにして、京子の顔をこのときまじまじと眺めてから、言った。

「あなたは何、どなたでしたか、おれは、隠れた眼の下で細くなっていた京子の眼が、まるで飛び出したように丸く、黒く、奥の奥の息が詰り、口を動かしても声が出ない。

「分らなくなっているんだよ」
 信利が言うと、京子は首を振るようにして、兄と父を交互に見比べ、

「嘘でしょう」
 「お父さん、私ですよ、京子ですよ」
 「はあ、京子さんねえ」
 「私よ。お父さん、私が誰だか分らないんですか」

「さて、誰でしたかなあ」
 「京子ですよ、京子ですよ。妹やだわ」
 父親の膝に手をかけて、髭をぶついていた、振り返った京子の顔には恐怖の表情があった。

「多分そうだろうと思っただよ、他のことも誰だか分らないらしいんだ」
 「まあ兄さん、嘘でしょう？」
 「訊いてみろよ」
 「お父さん、この人が誰だか分らないの？ え？ ジャ、この人は？」

京子が信利を指さしても返事をしな、次に昭子を指さすと、茂造は肩をぞひやかすようにして不機嫌な声で、

「分ってますよ、昭子さんですよ」
 「まあ」
 血を領した息子と娘は忘れてしまつて、さして親しくもなかつた。妹の方は名も顔もしつかり覚えていない。これは何事だろうか。

「僕のこと分ってるんだよ、叔母、叔母がどこかで見ていたらしく迎寄つてきた」
 「敏ちゃん、は大きくなつたねえ。叔母さん、名乗ってもらわなから分らないか、たわ」
 言葉が、この場では気のきいた芝居の台詞のように打っているのに、気がついて息を呑んだ。

「お父さん、いつからお父さんはこんなことになつていたの？」
 「これがよく分らないんだ。最初はお父さんが死んだショックで、一時的なものかと思つていたんだがね。どうも遠うようなんだ」

「はけちゃったのかしら」
 「ぞうらしい」
 しげうく黙り込んで茂造の様子を眺めていた京子は、いきなり両手を上げてバンバンと拍手をした。茂造は振り向くと、京子をまじまじと見てから昭子に、

「変な人ですね、この人は、葬式に来て手を叩いてますよ、神道じゃ無いということ分らないのですかねえ」
 と、皮肉な調子で言った。

京子が小さな声で囁いた。
 「筋道だったことは言うのにねえ。間違はなくお父さんらしい言い方なのよ」
 「それが誰の葬式だか、よく分つてないらしいんだよ」

「ええッ？ 嘘でしょう？」
 「嘘をつけるような場合じゃないよ」
 敏が大声で訊いた。
 「お爺ちゃん、誰の葬式か分つてゐるのかい？」

「婆さんの葬式ですよ」
 茂造は敏を見据えるようにして答えた。

FABRICA de GRANITO

Av. Rio Branco 7/a C. Post. 23, Fone 515
ADAMANTINA S.P.

大西石碑工場
 アダマンチーナ市リオブランコ大通り
 大西文吉 電話 二一三番
 電話 五一五番

日本式及ブラジル式

墓 碑 石 燈 籠

胸 像 記 念 碑

石 白 也 ち 白

石材美術彫刻類一切製作

古い墓の修理もいたします

アママンチーナ市リオブランコ大通り

大西文吉

SUL AMÉRICA CAPITARIZAÇÃO S/A

Resultado do sorteio do mês de -
 Maio/73
 QCI-IUP-ZQC-QAS-STL-AZU-
 O título Nº 2984685 combinação -
 QCI foi sorteado com 2.500,00,
 pertence a Lidia Mie Kawakami
 Próximo sorteio dia 29/6/73.
 五月分当籤組合文字は上記の通り。
 バストスの川上 リシアさんが
 2.500.00 ありました。
 取扱人 アルゲルド バスカクリス

1973年5月分 バストスの気温と降雨量 プラ拓製糸株式会社 測候部

項目	気温 °C	湿度計 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降水量 m.m	風向	天候	雲量
1	31.0	24.0	50	34.5	20.0		E	☉	
2	28.5	22.0	51	33.0	17.0		N	☉	
3	22.5	21.5	85	33.0	19.0	29.5	E	☉	9
4	23.5	19.5	63	25.5	17.0		E	☉	7
5	21.0	19.5	94	29.0	17.0	1.5	N	☉	10
6	22.0	21.0	90	22.0	17.0	19.0	S	☉	6
7	25.0	22.0	73	26.5	16.5		S	☉	7
8	22.0	22.0	80	28.0	17.0		E	☉	7
9	25.0	21.0	65	26.5	17.5		E	☉	5
10	21.0	21.0	100	27.0	18.0	12.0	S	☉	9
11	20.0	18.0	79	23.0	13.0		W	☉	3
12	16.0	13.0	67	23.0	8.0	2.5	S	☉	2
13	17.0	12.0	76	22.0	4.0		E	☉	5
14	18.0	13.0	51	22.4	4.0		E	☉	
15	21.0	16.0	54	23.0	6.0		E	☉	
16	20.0	16.0	61	24.0	6.5		E	☉	
17	22.0	17.0	55	26.0	5.0		E	☉	
18	25.0	18.0	45	27.0	9.0		E	☉	
19	25.0	19.0	51	28.0	10.0		N	☉	
20	20.5	19.0	46	29.0	15.0		N	☉	
21	21.0	22.0	81	30.0	20.0	1.0	W	☉	7
22	19.0	18.0	89	27.0	15.0	5.0	W	☉	9
23	21.0	19.0	80	22.0	12.0	0.2	E	☉	2
24	25.0	22.0	73	25.5	14.0		E	☉	2
25	25.0	23.0	51	27.0	17.0	2.0	E	☉	4
26	27.0	24.0	74	28.0	16.0		N	☉	
27	27.0	23.0	65	29.0	15.0		N	☉	
28	27.5	23.0	63	30.5	14.0		E	☉	
29	27.0	22.0	59	30.0	14.0		E	☉	
30	28.5	22.0	53	30.0	13.0		E	☉	
31	26.0	23.0	73	30.0	13.0		E	☉	2
合計	728.0	613.0	2128	841.0	419.5	102.7			
平均	23.4	19.7	68	27.1	13.5	3.3			

「うん、わかるよときもあるんだ。信利は肯いて、今朝眼がさめたらはかりいのか。一流の商社に勤め、多忙な日常のときは、家の様子に驚いて外へ出て、たまの休日にはゴルフに出かけるので行こうとするので一騒ぎだったのだと説き、たまり布団の中で寝てしまふ信利は、明した。

「失礼しました、帰ります、帰ります。信利の好きな料理を作ったときには届けて言うんだよ。冊子がひき止めたら、ど子に悪いが、此処にいるんだって驚いてにきていた。しかし、茂造は自分から息を悪しが、訪ねてくるという話は訊くんだからな。」

「お父さん、あなたの家ですよ、此処はなかつた。自分の病弱にかまけて息子もって言ったんだけど、なかなかなか納得なご娘も二の次、三の次であつた日常が、まらなくてね。冊子さん一緒に帰りましたよ自分から遠いものから忘れていったのか、敏はどうして此処に来たのですか。」

「兄さんと私のことは忘れちゃつて、京子は喘息をついた。後に続く言葉が、一俵たちなんか最初からさうだよ。京子は喘息をついた。後に続く言葉が、一俵たちなんか最初からさうだよ。ないようだった。信利は京子の暇さか理。そこを冊子が、雪の降る中を茂造が外解をきる。血縁というものについて、日登も着ずに歩いてきたことや、大鍋一杯本人はあまりにもこだわりの、その反と結びさまに話すことになった。ああ、だ。血は水よりも濃いとわいというが、その反と結びさまに話すことになった。ああ、証が今目前にある。茂造は実の息子も娘もあ、お福のさんも？ 京子は驚いて聞も見わすれていた。京子に会うのは十年き、それで茂造を知る者は誰でも彼が自分のふりなのだから無理もない。しかし、東京した。茂造を知る者は誰でも彼が自分の同じ困いの中、野を並べて行く、十五歳の具合と悪癖、よく話さない日はな

「お薬は床の間の隅の隅の戸袋の中にござり詰つていたんですよ。丸薬もあつたし。煎じ薬もあつたので、とりあえず丸薬の方を飲んで頂いて、お腹には懐炉を入れておきましたよ。」

「下しませんが、お腹痛い様子をみたんです。私、ぞつと便所へ様子を見たんです。けど大丈夫みたいなんです。今朝はお腹にしときましたけど、でも変です。お腹痛いこと何も仰言わないの。こちらで訊いても、はあ、大丈夫ですって。」

「変ねえ、昔は、こちらから訊くものなう。一時間でも説明したのに、私の主人が、んか能給当座はコソが、私、お腹痛い。口の太さまで聞かされて聞口したわよ。機嫌のいい日はねえ、今日は兎争丸のが出ましたって、色から形がうまいまで言つてたでしよう？」

「昨日も今日も何も言わないようだな。信利と昭子は顔を見合わせた。」

「呆けちゃ、たのねえ、きつと、いつた。何時頃からこうなつていたのかしら。京子の問いかけは、信利にも昭子にも同じ疑問であつた。いつた、いつた、何時頃からなつたのか。」

「お母さんはこのこと知つていたのかしらね。知つていたのでしようね。」

「返事が出来なかつた。スーブの冷めな、距離でも、別居は別居だつたのだと、痛いほど感じられた。驚くべきことに、茂造は生前に一言もその愚痴を嫁にも孫にも漏らしてはなかつたのだ。茂造は、難しい老人として誰かが敬遠して、自分の病氣意外に興味もなく、専ら妻を相手に文句ばかり言つて暮らして来た男だつた。」

「お母さんが先きに死ぬなんてねえ。京子は幾度となく同じ言葉を繰り返したが、もう泣かなくなつた。」

日曜日は焼き場も休みとかで、並車も来ず、月曜の朝や、と茶屋に付した。忌引で信利も昭子も勤め先を休み、故郷へ行かなくなつた。茂造は二十年前も前も故郷で働いていた信用金庫を、年退職して、以後は全くの隠遁生活だつた。茂造は、東京に彼自身の知人も少なく、身内だけのひびきと、野辺の送りになつた。近所の人の侍合は、亡くなつた妻のものであつて、茂造自身には友だちもな。茂造の顔を見れば、彼は格別の感情も示さなかつた。蓋が力チマンと開められ、裏つと火の音が電気の音が聞こえたと、昭子は脚を閉じ、京子は手で顔を掩つた。

火葬場の前の茶店で時間をすごす間、また京子が茂造にくどくどと話しかけていた。いや、京子としては熱心に父親の

「お父さん、私が誰だか分らないの。本当に分らないんですか。私はねえ。あなたのお腹です。」

「はあ、はあ、そうですか。」

「どうですか、はあ、分る？」

「おかしな人です、あなただけ。」

「茂造はようやく迷惑そうに顔を打った。私の娘は、あなたのような年寄りじゃありませんよ。」

「まあ、お腹痛い様子をみたんです。私、ぞつと便所へ様子を見たんです。けど大丈夫みたいなんです。今朝はお腹にしときましたけど、でも変です。お腹痛いこと何も仰言わないの。こちらで訊いても、はあ、大丈夫ですって。」

「変ねえ、昔は、こちらから訊くものなう。一時間でも説明したのに、私の主人が、んか能給当座はコソが、私、お腹痛い。口の太さまで聞かされて聞口したわよ。機嫌のいい日はねえ、今日は兎争丸のが出ましたって、色から形がうまいまで言つてたでしよう？」

「昨日も今日も何も言わないようだな。信利と昭子は顔を見合わせた。」

「呆けちゃ、たのねえ、きつと、いつた。何時頃からこうなつていたのかしら。京子の問いかけは、信利にも昭子にも同じ疑問であつた。いつた、いつた、何時頃からなつたのか。」

「お母さんはこのこと知つていたのかしらね。知つていたのでしようね。」

「返事が出来なかつた。スーブの冷めな、距離でも、別居は別居だつたのだと、痛いほど感じられた。驚くべきことに、茂造は生前に一言もその愚痴を嫁にも孫にも漏らしてはなかつたのだ。茂造は、難しい老人として誰かが敬遠して、自分の病氣意外に興味もなく、専ら妻を相手に文句ばかり言つて暮らして来た男だつた。」

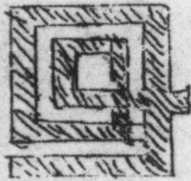
「お母さんが先きに死ぬなんてねえ。京子は幾度となく同じ言葉を繰り返したが、もう泣かなくなつた。」

日曜日は焼き場も休みとかで、並車も来ず、月曜の朝や、と茶屋に付した。忌引で信利も昭子も勤め先を休み、故郷へ行かなくなつた。茂造は二十年前も前も故郷で働いていた信用金庫を、年退職して、以後は全くの隠遁生活だつた。茂造は、東京に彼自身の知人も少なく、身内だけのひびきと、野辺の送りになつた。近所の人の侍合は、亡くなつた妻のものであつて、茂造自身には友だちもな。茂造の顔を見れば、彼は格別の感情も示さなかつた。蓋が力チマンと開められ、裏つと火の音が電気の音が聞こえたと、昭子は脚を閉じ、京子は手で顔を掩つた。

火葬場の前の茶店で時間をすごす間、また京子が茂造にくどくどと話しかけていた。いや、京子としては熱心に父親の

MAGVETTI LTDA

AGENTE EXCLUSIVO OLIVETTI



MAQUINAS DE ESCRIVER, SOMAR E CALCULAR,
 MANUAIS, ELERICAS E ELETRONICAS,
 OLIVETTI ASSISTENCIA TECNICO ESPECIALZADA
 PERMANENTE
 BASTOS - Rua 10 de Novembro 551. Fone 388 C.P.9
 TUPA - Rua Caetes Nº 679 Fone 2528

計算機 電気計算機 タイプライタ フィッタ 切
 電気タイプライタ フォルミカ事務机 アルキ-ボ
 コフレ (金庫) 等々

ATENDE BASTOS E REGIAO 林 広 人

海野武男訪日記 2

タクシーで失敗の巻

観光旅行の第一日が東京です。交通公社の係りの人と、ガイドと計二十人でした。振出しが宮城、凡の内、皇居です。二重橋前で記念写真を撮り、楠正茂の銅像に敬意を表しました。が早速ガイドさんのテラストです。今見た正茂の乗った馬は、前足を揚げていました。左足でしか右でしかか。と、誰も見ていなかった。だが返答がないので株点〇でした。それから桜田門や半蔵門を見て道徳館を廻り、国会議事堂の前を通り、東京タワーを見て、昼食後九段坂の靖国神社、大村益次郎、品川弥次郎の銅像を見て、午後四時頃浅草劇場へ入りました。

芝居見物が終って観音様に参詣して仲店見物をするのが今日のスケジュール。観音様の前で人員を調べてみると二人足りません。さあ大変です。ガイドさんが大急ぎで戻りに戻って行きました。全員待たなくてはいけません。

一時間程して手ぶらで帰って来ました。仕方なく予定通り仲店見物を終ってホテルに着いたのが七時でした。三十分程して二人はタクシーで帰って来ました。が、団体行動の時は、各自注意が必要だと思えます。聞けば、あまり寒いのでカボチを買って来たとのことでした。

二日目、日光見物です。朝早くオニバスで浅草駅に出て、国鉄東武線特急で一時間半位で到着しました。日光は高い山の中ですが、美しい観光地です。道の両側は土産物店です。はいです。

第一が華嚴の瀧です。落差約百、水量は余り多くはないが、日本一だそうです。その他にたくさんのお土産があります。余り寒いので見物どころではありません。殿房のある土産店は一杯です。昼から東照宮や、昔の遺跡を見物して、中禅寺湖で遊び、晩方東京のホテルに帰宿しました。

第三日は、鎌倉ですが、皆さん御承知の事と思いますが、戦国時代源氏の都であった関係上、その遺蹟が至る処にあり、また、露坐の大仏を始め、八幡宮その他鎌倉宮等々一日の観光では無理の様です。次は第四日目の箱根の観光ですが、同じような旅行が長く続きますので、ちょっと息抜きにエピソードを一つ。前に記すのを忘れておりましたが、私共一行三人は老人ばかりで、姉は七十九歳、私が七十二歳、妻は少し若いので、健康百%ではありません。

墓地美化完成に
献身的に努力を尽した

霜出老の功勞

記念碑を建てるので

忘分の寄附を

御願ひ致します

金は会計 杉山氏へ御渡し下さい

建設委員会

話は、新約の為め郷里出発前日のこと。岡山駅を朝七時五分に新幹線に乗り、十一時半無事東京駅に到着して改札口を出るとすぐタクシーを拾った。たまにはよいのですが、三人で荷物が多い。首からハンドバックをふら下げている。運転手は早く早と急々が、自由がきかない。何十台という車がブーブーとブツブツをうる。手間取った末に、や々と乗り込みました。

出発してから行く先きを教えましたが、運転手はものを言いません。約十五分間程して車を細い路に入れて、此地で降りて呉れというのです。私共は東京の地理には暗いので、此地がどの辺りか一向わかりません。運転手を信じて料金など問題ではありませんが、二、三五六歳の青年でした。とうとう村問答の結果降ろされてしまいました。運転手はメータを〇に戻して、料金も取らず、物をも云わずに逃げて行きました。料金は三百円余りのようでした。さあ困った。聞くと、此の通りは、タクシイは通らないとのこと。御承知の方が多いと思えますが、私は強度の近視眼です。向うから急遽で来る空車の区別がつかない。アベニーダまで重い荷物を持ってきて、無暗に手を揚げました。

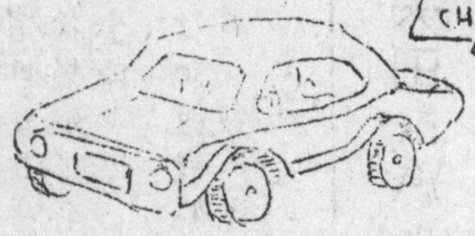
幸に一台の車が私の前で停車しました。一番先にきいた事は千代田区永田町ホテルニュージャパン知っていますかですか。又途中で降りされては困るからです。運転手はそのホテルは知っていたらと云うてくれたので蘇生の思いでした。昼すぎ目的のホテルに着くことが出来ました。それにつけても旅をする時手荷を余り多く持つことは災々も注意せねばならぬと思いました。(以下次号へ)

第六回汎パワリス夕連合日語
学校児童お話発表会

去る六月十日午前八時よりバストス綜合会館に於てお話発表会が開催された。出場児童中込は一〇一名だったが大々二名、実演九名、聴衆者各比より某々中々の盛会であった。

- 大会は次の順序で進められた。
- 開会宣言 司会 小倉杉夫
- ブラジル国歌 斉唱 音唱
- 名が代 小倉杉夫
- 閉会の辞 小沢将男

MARVEL - MARILIA VEICULOS Ltda.



CHEVROLET

シエボツテ

名実と世界の高級車
新発売の小型
シエボツテ Chevette

高級車 オパラ
カミニオネツテ
カミニオン

ご希望により中古車とお取替いたします

毎週クワルタフェーラ(水)に
バール柳浦に出張いたしますから御相談下さい
便利にお計らい致します

瀬尾清

お知らせ

入植祭

演芸会出演申込

受付 小茂田商店

永吉商店

六月三十日まで

七月二十日、二十一日、二十二日

出演者名 題名が必要

演芸係

各位

- 祝辞 総裁 汎パ連合文化協会会長 水島順太郎
- 訓辞 講師委員長 A D A 横山敬男
- お話開始 A B C D E 順次 フロントより
- 担当委員講評 A B C D E 担当各位
- 総評 委員長 長
- 参加並に優秀賞授与
- 閉会の辞 バストス日語並及会長 中 浦 三 司
- 当日の役員は左の通りであった。
- 司会 バストス日語普及会副 小倉杉夫
- 大会委員長 巴文樹副 小沢将男
- バ日語会長 大会副 中浦三司
- 総裁 ツバシ文樹 汎パ連合 水島順太郎
- 講師委員長 アダマシナ 横山敬男
- 委員 マリア 房前秀馬
- トバン 木村春太郎
- バストス 小倉杉夫
- バラバン 前田精勝
- バカエン 島山 力
- ドラセマ 富舌方暢

お諮発表会 各班優秀賞左の通り

- A 菊田キヨミ (アゲ)
 - 高野てる (アゲ)
 - B 富吉美智子 (トラ)
 - 船津明子 (アゲ)
 - C 松原早苗 (アゲ)
 - 福森ひろみ (アゲ)
 - D 高野敏子 (アゲ)
 - 沼田みどり (ハロ)
 - E 松原かおる (アゲ)
 - 金崎由野 (ハロ)
- 石橋マリー (トラ)
- 石橋和枝 (トラ)
- 吉不ちえ (アゲ)
- 寺田由美 (アゲ)
- 渡部みゆき (アゲ)

以上の生徒に小沢将男賞を贈る。優
秀三名、特に等級を付けないこととした。

奥田民蔵氏訪日動静録

於五月廿二日 和歌山 黒湖 登

この度農林省派遣北米アラジル果汁調
査員の名六月一日出発聖市滞在中、ポ
ン果汁の価値を日本では高く評価して
います。之を立証するため興津試験場を
五月末、八日滞滞在研修いたしました。
静岡農協協進会会経済部長田中敏夫氏
は前記派遣員の一であり、田中氏
には五月廿五日同会事務所へ面談いたし
ました。

五月廿一日には伯国大使館で原田商
官にも面談致しました。私の推察する処
では近い将来日伯間の自由取引のための
準備でないかと思えます。

出発前の前記田中敏夫氏に聖市滞在中
にポンカンモロコシなどが出廻るころだ
から試食をすすめておきました。

新相連協同組合連合会生産部長三浦英
雄氏及び、新柑橘生産部編集長菅本間
房男の両の御案内で、返果物飲料水、鑑詰
工場を視察し、大いに参考になりました。
又昨年四月聖州リメイラ地方視察され
た農林省食品研究所技師高梨勉氏とも面
談し種々の資料を貰いました。

近日中和歌山県視察を了え東京で買物
など整え、六月廿七日出発準備の準備を
致すつもりですが、何分六十日間の旅行
疲れで少し東京で保養してもいいな、な
ど考えています。

日本語をへんきょうさせましよう

午前 午後 夜間
くわしくは 阿部新蔵へ

おたすね下さい

あゝあゝ日本もこんなになつたかな

○エ □ 餓鬼

私は小中学生のころは人教師ですが、
アルバイト)いやは最近の子ビっ子連中
には全くショーゲキの連続なんです。
小学生のくせに男女交際、ラブレター
の交換など当り前、中学生ともなるど
やれ昨日はだれぞれちや人とデートした
とか。
学校の先生はブルーフでなけりや女の
子とつき合っちやいけませんというけど
何とかうまく一対一になる方法はありま
せんか。

なんてことまで私にさく始末
アルバイト仲間の子学生と私がちよ
つとでも立ちあししようものなら「ワ、熱
い熱い」と大騒ぎ
大人が赤面するような言葉もポンポン
飛び出してきます。

こいつは大学生になつても、まだ発展
できないというのに、全く家庭ではとく
なしつけをしてる人でしようね。最近
は呆れを通り越してチビっ子たちがウラ
ヤマシイ(福岡の学生オオ)

新しい笑話

の駅便、テパットのトイレで
A なかなかションが出ないな
B 二人なきれいな便所では出にくいんだ
A うすき靴なくて、さくさくして煙草のガラや
ガムがべちゃつとしていて、尿のトイレ
でせかせかやるくせがついたからな

句評

茎漬や最合の井戸のあく間なく 南天子
ブラシルでも田舎の耕地へ行く共同井戸
がある。五六軒で使うから一杯の水も中
々汲めないことがある。茎漬というのは
白菜のような葉を摘がないからバケツ代
用で塩漬にして大石をのせて、やつと目
の仕事をかけた。これからお洗濯と井
戸へ出かけた。もはや巻きつるべのそ
はには四人も五人も人が居る。佐々木前
天子最近の傑作である。(55評)

時計は

セイコウ とくやくてん

高田時計店でどうぞ

死亡通知並に会葬御礼

父、小林金次郎（八十四歳）儀病氣加療中の此薬石の効なく去る六月五日午后四時長逝いたしました。依って六日午后四時自宅出棺、バスト又墓地に埋葬いたしました。

此儀生前辱知各位に謹告申上げます。

追って葬送の節は御多忙中遠路態々御会葬下され、その上過分の御香料、並びに花輪等御供々賜わり誠にありがたく、厚く御礼申上げます。一々御礼に参上致すべきですが取込申その意を得ず失礼乍ら紙上を以って御礼申上げさせていただきます。

一九七三年六月七日

バストス 中央 第五区

小

安林

同同恵茂

親 遺

戚 族

バストス 市役所 様

バストス 日伯文化協会 様

コチア産組バストス鶏卵集荷所従業員一同 様

バストス 群馬県々人會 様

カーザ・ラッソソ 様

バストス 南米本願寺 様

バストス 連合仏教会 様

バストス 老人俱樂部 様

バストス 仏教婦人會 様

バストス 中央区會 様

バストス 中央第五区 様

バストス 中央第六区 様

セグンド コレシアル B 様

バストス フラビスコ商工會社 様

ボンフィン区 同 様

スールラジルバストス農産組合 様

スールラジルバストス農産組合従業員一同 様

バストス 少年野球部 様

バストス 野球部 様

会葬者各 位 様

RAÇÃO CARGILL

CRECE AVES - RAÇÕES LTDA
Rua Presidente Vargas 341
BASTOS SP.

ラジーンカルジウの

販売配給倉庫を設けました
養鶏家各位の御愛顧を御
いたします。

優秀品質ミニリヨの種子の
予約を引受けます

ブレンテンテ ヴァルガス街 三四一番地

桑原 山内共営

販売員参上の節は何卒宜しく御引見の程を

お願い申上げます。

Teatro de Cine Bastos

六月十七日(日) 九時半 十八日(月) 八時
東映 日本 **男はつらいよ** 高倉健 中村玉緒 鶴田浩二
天竺色 俠客伝 **男はつらいよ** 藤純子 伊吹五郎 片岡千恵蔵
命を賭けた任務の軌跡、男の腕には男の腕、女の腕には男の腕と牡丹、

六月十九日(火) 二十日(水) 両夜とも八時
東映 昭和 **唐獅子仁義** 若山富三郎 清川虹子
然色 残侠伝 藤純子 藤山真美
町田京介 高倉健
親かに義か女をとろか、仁義抱き男の世間、親の涙も見ないふり、一本刀泣かぬ共のぬ高倉健、

六月二十二日(金) 八時 二十三日(土) 九時半
松竹 然色 **男はつらいよ** 渥美清 松村達雄 大塚久雄
然天 倍賞千恵子 前田吟 宮口精二
吉永小百合 三崎千恵子 笠智衆

六月二十四日(日) マチ午二時 夜七時 九時半 二十五日(月) 八時(十四オ)
日米合作 超大型 **トラ・トラ・トラ** マチンバルム。ジュースンロバス。EG.マーセル
然天 然色 **トラ・トラ・トラ** 外日米オールスター 田村高広
山村聡・三橋達也・島田正吾

映画史上最大巨費を投じた大至洋戦争秘録
六月二十六日(火) 二十七日(水) 両夜とも八時
東映 然色 **緋牡丹博徒** 藤純子 清川虹子
然天 花札 若山富三郎 嵐寛十郎
待田京介 高倉健

六月二十九日(金) 八時 三十日(土) 九時半
松竹 然色 **母と娘** 青春の魅力にはずむ鶴洲晴子、
また、緋牡丹れ咲き、吹くと見せて、斬らぬと見せて、一瞬おどろけ込みかんざし

六月二十九日(金) 八時 三十日(土) 九時半
松竹 然色 **母と娘** 鶴洲晴子 月丘夢路 佐分利信
佐々木功 佐野周二 成沢昌茂